

# 2030年に向けた 組合員参加のあり方に関する提言

2030年に向けた組合員参加のあり方検討委員会 報告書

～参加がもたらす価値を未来につないでいくために～

2022年5月（第1版）  
日本生活協同組合連合会

2

本資料の構成	スライド
提言の目的	3～
提言報告書の構成	4
基本視点の共有 － 参加がもたらす価値	5～
概要	7～
基調 一今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか	9～
第1章 組合員参加・組織の未来のあり方 【提言1】	14～
第2章 商品を真ん中にした「食」と「暮らし」のコミュニケーション 【提言2】	23～
第3章 組合員参加でつくる地域コミュニティ 【提言3】	26～
第4章 運営・意思決定への参加・担い手 【提言4】	31～
第5章 新たな参加を拓くDX 【提言5】	37～
日本生協連理事会よりよびかけ	40～
資料目次	42

## 〔提言の目的〕

本提言は、組合員参加をより豊かに広げていくために、多くの生協が直面している、活動の担い手の減少など今日的な課題と、その解決の方向性を示すことで、**各生協での議論の参考になることを目指しました。**

## 〔2030年に向けた組合員参加のあり方に関する提言 構成〕

- 基本視点の共有 一参加がもたらす価値一
- 提言概要
- 基 調
  - 第1章 組合員参加・組織の未来のあり方
  - 第2章 商品を真ん中にした「食」と「暮らし」のコミュニケーション
  - 第3章 組合員参加でつくる地域コミュニティ
  - 第4章 運営・意思決定への参加・担い手
  - 第5章 新たな参加を拓くDX
- むすびにかけて
- 提言を受けて —
  - 「2030年に向けた組合員参加のあり方に関する提言」を受けて全国生協への呼びかけ
- 資料



## 基本視点の共有 － 参加がもたらす価値

### ➤ 生協に参加することは、組合員自身に様々な価値をもたらします

提言4P

- ・「情報」や「体験」「つながり」を得る
- ・生協への参加は、組合員一人ひとりにとってエンパワメントの機会になる

### ➤ 生協が参加を大切にすることは、地域や社会の関係を豊かにします

- ・組合員（市民）どうしのつながりは、地域の支え合う力の基礎に
- ・地域や社会の課題を「自分ごと」としてとらえる人が増える
- ・一緒に考えたり行動するつながりが地域や社会の財産に

### ➤ 組合員の参加は生協運営の基盤をつくり、多様な人々の参加は生協を豊かにします

- ・生協の中にエンパワメントされる機会と関係が広がる
- ・組合員と地域の中にソーシャルキャピタル（＊）が育まれる
- ・様々な参加の場面を通して生協とのかかわりが増え、生協のことを大切に思う人が増えていくことは生協運営の基盤となる

\* ソーシャルキャピタル：人々の社会への関心や関与の意欲、社会の中での人々のつながりや信頼関係を示す。



## 基本視点の共有 － 参加がもたらす価値

今、多くのたちは家庭や仕事のことに追われ、社会の問題は複雑になり、地域のつながりは弱まっている、という現実があります。社会やその中で営まれるくらしは、ますます大きくそして激しく動いています。

提言5P

私たちが大切にしてきたことをつないでいくためには、これまでの延長ではなく思い切った転換が必要かもしれません。

2020年からのコロナ禍の中でも、新しい動きが生まれています。「参加がもたらす価値」そして参加が生み出す力を、これから先、組合員になる人たちにつないでいくために。今、参加の価値と力を感じているあなたと一緒に、考えあいたいと思います。

## 概要

## 参加がもたらす価値

提言6-7P

- ▶ 生協に参加することは、組合員自身に様々な価値をもたらします
- ▶ 生協が参加を大切にすることは、地域や社会の関係を豊かにします
- ▶ 組合員の参加は生協運営の基盤をつくり、多様な人々の参加は生協を豊かにします

## 背景認識

- 人口減少
- 女性の就業割合の向上
- インターネット・SNSの浸透による情報へのアクセス方法の変化
- 活動の場の多様化
- 生協活動の認知の低下

## 組合員参加の現状

- 組合員活動への参加人数の減少
- 地域の基礎組織の登録人数・組織数の減少
- 総代定数よりも「地域の基礎組織」の登録人数が下回る生協の増加

## 危機意識

- 現在のしくみや活動のあり方では、参加はますます減少し続けるのではないか
- 活動の中心となる委員、また総代や組合員理事を担える人もいなくなるのではないか
- 組合員の参加による地域のつながりづくりも弱ると、地域を支える一翼を目指す生協の役割を果たせなくなるのではないか
- 総代や理事を担える人が減ると、生協の機関運営にも支障をきたすのではないか

## 概要

1

組合員参加と組織のあり方の未来を描き、  
しくみや制度をリ・デザイン（再設計）することを提言します

提言7P

- ・地域の基礎組織の多様性を工夫する
- ・小さな参加・小さな集まりやコミュニティをたくさんつくる
- ・持ち寄り型の参加をとりいれる
- ・一人ひとりのかかわり方の違いを認め合う
- ・コーディネーターを位置付ける

2 商品を真ん中にした「食」と「暮らし」をめぐる参加を豊かに広げていきましょう

- ・一番身近な参加であり引き続き広げる
- ・オンラインを活用する
- ・「商品を選ぶことが社会参加につながる」商品活動の価値を広げる

3 地域の人や組織を組合員参加でつなぎ、オープンな居場所やコミュニティづくりを実現し、ともにくらす地域をつくりましょう

- ・地域を連携するコーディネーターを配置する
- ・オープンな居場所づくりをすすめる
- ・生協と一緒に！という存在になる

4 総代選出のあり方と新たな組合員理事像を描き、  
2030年の機関運営のデザインを検討しましょう

- ・総代選出基盤を広げる
- ・新たな組合員理事像を描く
- ・多様な状況の中でも、総代、組合員理事の役割を果たせるあり方に変えていく

5

## DXを起点に新しい参加を生み出し、新たな生協像を拓いていきましょう

- ・DXに備え、組合員参加を時代にふさわしい形にデザインする
- ・組合員活動・参加のプロセスの合理化とデジタル化に着手する



## 基調 今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか

提言8P

「参加がもたらす価値」を未来へとつないでいくためには、**社会やくらしが加速度的に大きく変化している今、組合員参加の現状をしっかりととらえることが重要です。**

日本は**人口が減少**しています。生産年齢人口の減少も続くなが、**女性や高齢者**の就労は**増加**しています。「2021年度全国生協組合員意識調査(※)」からも、組合員の**平均年齢は59.0歳**と**過去最高**になり、高齢割合がさらに増えていること、また各世代で就業割合が増加し、なかでも**30～40代**の若い世代は**75%以上**が就業しているという実態が見えてきました。

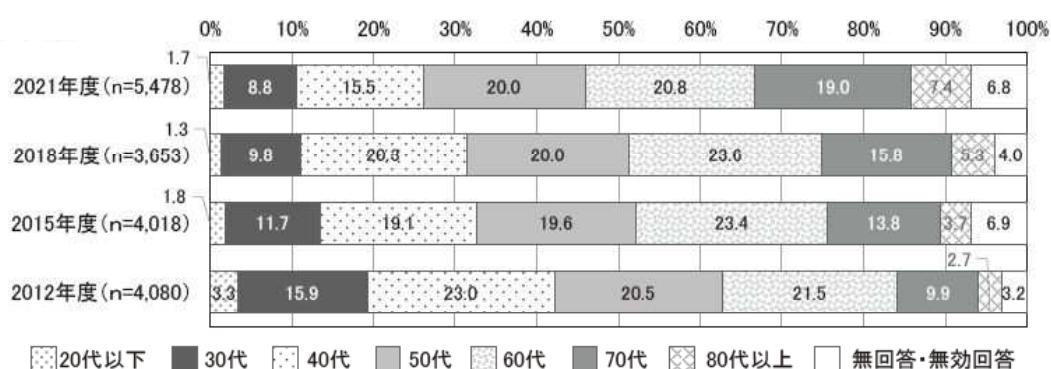
※ 生協組合員のくらしや購買行動、生協利用状況、生協の事業・活動に関する意識を明らかにし、事業・活動の方針検討に活用することを目的として1994年度から3年ごとに実施している。2021年度で第10回目となる。



## 基調 今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか

資料34P

**組合員の年代別構成を見ると、21年度調査では、60代以上が半数以上になりました。**



## 基調 今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか

2021年度「全国生協組合員意識調査」から

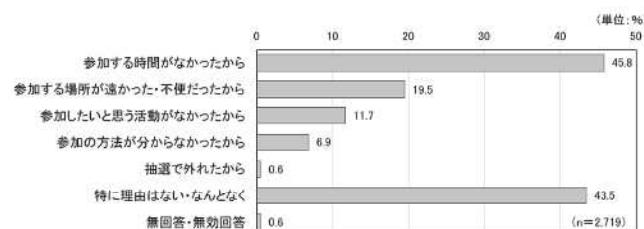
資料36/38P

生協の活動への参加経験については、**参加したことがある組合員は12.9%**で、「生協の活動を知っていたが、参加したことない」が**49.9%**、「生協の活動を知らなかった」が**32.6%**でした。



### ◆「知っていたが参加したことない」の不参加理由ー

「参加する時間がなかったから」45.8%、  
 「特に理由はない・なんとなく」43.5%、  
 「参加する場所が遠かった・不便だったから」が19.5%

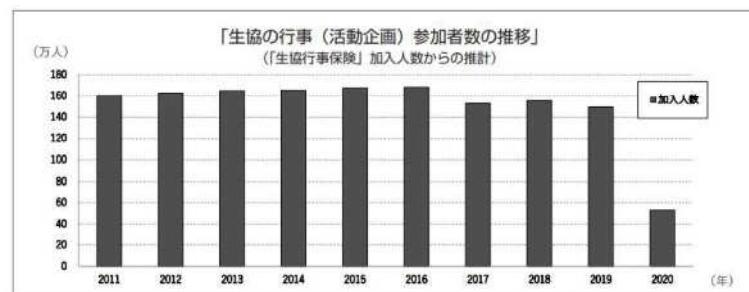


## 基調 今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか

「2020 年度全国組合員活動実態調査から

提言9P

- 2020 年度はコロナ禍もあり、オンライン参加などの工夫を進めたものの、企画参加の総人數は前年度の約 3 分の 1 に減少しました。



- 「地域の基礎組織」(\*) の組織数・登録人數の減少傾向が続いています。

\* 本提言では、「コープ委員会」や「コープ会」、「〇〇ひろば」、「〇〇カフェ」など名称は様々ですが、地域に最も近く定期的に開催され、生協とコミュニケーションがとれている状態の組合員組織を「地域の基礎組織」と記載します。



## 基調 今、なぜ、「生協の参加と組織のあり方」を提言するのか

提言9P

2020 年度からのコロナ禍により、リアルに集う組合員参加の機会が激減するなか、私たちはあらためて、「**参加**」により生まれる「つながり」の**価値を再認識**することになりました。

生協の「**参加がもたらす価値**」とコロナにより気づかされたつながりの**価値**を未来につなぎ、参加を広げ、参加の層を厚くするために、**新しいあり方を検討し改革すること**を提言します。

このことが先に述べたような**危機の解決への方向性を示す**と考えています。

## 第1章 組合員参加・組織の未来のあり方

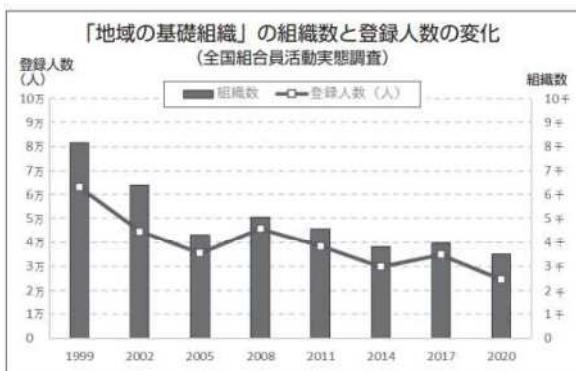
提言10P

### 提言 1

**組合員参加と組織のあり方の未来を描き、  
しくみや制度をリ・デザイン（再設計）することを  
提言します**

## ■これまでの担い手と「地域の基礎組織」

### 「2020年度全国組合員活動実態調査から



### ■担い手の減少の要因

- 女性の就業率の向上→平日の昼間に行われる活動に参加できない、または生協の活動などの場面を見ることがない、知る機会がない
- さらに、インターネットやスマートフォンの普及と定着により、以前は生協で得られたくらしや社会の情報が生協以外でも得られるようになり → 情報へのアクセス方法や活動の場が多様化したという外部環境の変化

これまで、「地域の基礎組織」の活動は、「[委員](#)」や「[組合員リーダー](#)」という担い手が、  
多くの時間を割くことで成り立ってきたと言えるのではないでしょうか。

## ■これまでの「地域の基礎組織」が果たしてきた役割と現状

- 参加する人たちの自主性を大切に  
→商品や環境、平和、消費者問題などの学びや、産地交流や、つどい等の活動を自発的に運営
- 参加者は、新しい知識を得たり、くらしの交流をしたり、人とのつながりができるなかで楽しいひとときを過ごし、コープのファンづくりにも貢献
- 実質的に総代選出の基盤という役割も果たしてきました。

## ■多様化するくらしのなかで、これからも参加を広げていくために

- それぞれの生協の組合員組織全体の定義と目的を再確認、再設定するところから始めましょう。
- 従来の「地域の基礎組織」のみでは、多様なライフスタイルやその時々のライフステージに応じた参加を提供するのが難しくなっているのではないかでしょうか。
- いろいろな状況の人たちが参加できるよう、開催場所や時間、参加やつながりの持ち方など、参加の形に多様性を持たせましょう。

8月24日「提言報告会」より  
コープみえ：  
「不足しているのは担い手ではなく、場づくりではないか？」

## ■「地域の基礎組織」などにおける多様な参加の可能性

コロナ禍 オンラインで分散型・非同期の実践

→ 新しい参加者が増えた

参加の形を多様に・ハードルを下げる

→ 参加できる層が広がる

↓      ↓

たとえば「地域の基礎組織」にも多様性を持た

せる、活動のハードルを下げるなど、

これからのあり方を検討するという方向性もある

のではないでしょうか

〔事例〕エリア会をサポートする「エリアスタッフ」の配置

- ・20年度下期から配置し21年度スタート
- ・エリアメンバーやブロック事務局、他の組織とのパートナーシップを大切にし、メンバーの主体性・自発性が発揮できるようリーダーシップをとり、活動を促進させる役割
- ・22年度、前年より倍増

コラム  
column  
1

京都生協

活動のハードルを下げ裾野を広げる  
「エリア会」



2013年度、京都生協は地域の基礎組織を、行政区委員会から「エリア会」に変更しました。行政区委員会は、①組合員参加における理事会方針の課題を具体化し地域で実践し広げる、②自治体訪問や他団体との関係を構築する窓口、③行政区別総代懇談会の運営が主な役割でしたが、「エリア会」は、①会議運営や企画づくりを学び、体験する、②社会的な課題と生協の事業と商品を学習するという2つの課題に絞りました。20年度からは、負担を感じやすいリーダー・サブリーダーの役割は有償ボランティアの「エリアスタッフ」に移行し、オンライン会議と自宅学習を柱とする運営にしました。エリア会メンバーの年代構成は40代までで80%以上となり、積極的に総代になってもらうことで、総代の年代構成もバランスが取れるようになりました。

## ■小さな参加・小さな集まりやコミュニティをたくさんつくる

「特定のニーズやライフスタイルでつながる」という発想も有効では？

期間限定、地域限定など、特定の人たちが、暮らしの中にある切実な課題やニーズでつながる、そうしたつながりを活動の形にし、小さな集まりやコミュニティをたくさん、多様に作っていく  
ということも必要ではないでしょうか

コラム  
column  
2

大阪いずみ市民生協

子育て世代の組合員のコミュニティ  
「きらきらママの会」



大阪いずみ市民生協は、2020年度に月齢3-6か月の第1子がいる組合員のコミュニティ「きらきらママの会」をスタートさせました。1年間同じメンバー8人で、『きらきらステップ』の商品学習や助産師や医師が講師となる「産後のからだのケア」「赤ちゃんのオーラルケア」などの学習や交流を通じて、子どもと一緒に成長していくコミュニティです。

## ■ 可能性としての「持ち寄り型の参加」

- 仕事もしながら生協にかかわることができる
- 参加することでうまれるつながりが自身の成長や人生を豊かにできる
- その一案として、「**持ち寄り型の参加**」という可能性 があると考えています。

### 持ち寄り型の参加とは

「できるときに、できるひとが、できることを」（あるいは「やりたいときに、やりたいひとが、やりたいことを」）という、一人ひとりが無理のない範囲で自らすすんでかかわることができる参加の形

- 一人ひとりが「自分の時間」を持ち寄る
 

ある人は多くの時間を提供できるかもしれません。一方で、家のパソコン作業ならできる、  
当日のお手伝いならできる、という人たちもいるかもしれません。
- それぞれが無理なく提供できる時間、あるいは得意なことを持ち寄る
- それらを組み合わせて活動を作り上げていく

〔事例〕コープみえ  
 ・20年度から徐々に新しいしくみを導入  
 ・「地域センター」は、地域の「つながる場・地域を支援していく場」に空いた時間で応援  
 ・各地域、居場所や食堂、地域支援活動等の際に広報等で都度募集

8月24日「提言報告会」より  
 みやぎ生協：  
 「リーダー」から「チーム」へを検討中

## ■ 一人ひとりを認め合い、無理なく提供できる時間を持ち寄る「参加」

### 目的や枠組みが明確な参加における持ち寄り型…

**コラム column**

**3**

**コープながの**

**「がっこうシリーズ応援隊」**  
 ~参加できるときにお手伝い~



コープながのには、信州の自然の中で、畑や田んぼ、森、川のフィールドで、楽しみながら自然・環境・農林業体験や食の大切さを、組合員とその家族が学び交流する企画「がっこうシリーズ」があります。企画が行われる現地で準備や受付、参加者の見守り等、事務局の当日運営をサポートとして担うのが、“がっこうシリーズ応援隊”です。応援隊は、週末・祝日を中心に屋外で開催する企画の運営をサポートする有償ボランティアで、活動費と交通費の支給があります。あらかじめ登録しているサポートーは、お手伝いの依頼をメールか電話で受けとり、自分ができるときに応援隊として参加します。

## 第1章 組合員参加・組織の未来のあり方

提言14P

### ■一人ひとりを認め合い、無理なく提供できる時間を持ち寄る「参加」

緩やかな場に集まつた人たちの関心ごとや想いから新しい「何か」が始まる可能性も…

**コラム  
column  
4**

大阪いずみ市民生協

「みんなで居場所をつくるプロジェクト」  
みんなでゼロからつくる自分たちの居場所

大阪いずみ市民生協で始まった「みんなで居場所をつくるプロジェクト」は、さまざまな人とつながり、お互いを知り合う中で、家庭でも職場でもない新しい居場所づくりをすすめています。2020年には、「学び・つながり・支え合う」をコンセプトに大阪狭山市に1か所目となる「まちのリビングすきいま」ができました。壁一面にはみんなでつくった「大黒板」があり、まちのいろいろな情報が寄せられるなどシンボル的な存在として活用されています。



### ■将来的には「地域の基礎組織」も「持ち寄り型の参加」へ

10年後を見据えるとき、「地域の基礎組織」→多くの時間を費やすくても参加可能な運営となるように検討・準備しておく必要があります。

## 第1章 組合員参加・組織の未来のあり方

提言15P

### ■多様な参加を実現するための「コーディネート機能」の必要性

- 持ち寄り型の参加の運営を実践したり、小さな組織をたくさんつくりしていくためには、  
**コーディネート機能が必須です。**
- コーディネーターの育成プログラム
- 地域の中すでにその役割を発揮している人たちと協同するという可能性
- コーディネーターの配置、またはコーディネート機能や体制を構築するためのプロセス設計が必要
- コーディネート機能の重要性を認識し、しっかりと組織的に位置づけ、サポートする

### ■未来に向けて

- 「できるときに、できるひとが、できることを」というスタイルを取り入れる
- 「地域の基礎組織」など、組合員組織のあり方の見直しをするということは、委員の有償性や活動費、総代選出のプロセス、組合員理事の育成プロセスなど、多くの方面に影響が及びます。
- 一足飛びに変化をつくるのは困難かもしれません。**
- はじめは従来のしくみややり方を**少しずつ変える**、新しい活動やプロジェクトとしてチャレンジし既存の仕組みの中に取り込んでいくなど、**それぞれの生協の現状に合わせたプロセスの設計が必要です。**
- リ・デザイン→ **各生協が当事者意識をもって、組合員とともに進めていくことが重要だと考えます。**

## 提言 2

### 商品を真ん中にした「食」と「くらし」を めぐる参加を豊かに広げていきましょう

#### **■商品コミュニケーションは組合員にとって一番身近な「参加」**

- ・組合員は、多くの場合、生協の事業や商品を利用するために入会します。
- ・商品を利用することで生まれるコミュニケーションは一番身近で、多くの人が関わる場面
  - 生協の商品は、組合員から寄せられる「声」で商品を改善・開発
  - 組合員は声が受け止められ願いが実現することで、生協に親近感や愛着を持ち、「私の生協」という実感を得てきました。
- ・商品をめぐるコミュニケーションは、活動や参加という視点から見ると、  
**他の市民活動にはない独自の参加の形や場面**でもあります。
- ・事業の視点から見ると、他の事業者にはない組合員とともにつくる事業のあり方もあります。
 

↓ ↓
- ・これからも、「商品」「食」「くらし」についての組合員への「問い合わせ」を増やし、  
生協ならではの商品コミュニケーションを広げていきましょう。

〔事例〕コープながの  
 ・総代コミュニケーション  
 ・『CO・OP商品声ニュース』を毎月配布  
 ・CO・OP商品のことを知りたい  
 →商品のことがよくわかる  
 『CO・OP商品声ニュース』を活用

## ■商品コミュニケーションの魅力

- 「初めて会った人ともコープ商品の話なら盛り上がることができる」
  - 「商品を囲むと笑顔になる」
  - 「商品の交流は世代を超える」
  - 「商品の美味しさ、良さだけではなく、商品の持つ背景を考え学ぶことができる」
  - 「そこから産地への興味など幅を広げることができる」
  - 「食、地域などの課題も知ることができる」
- (「これからの組合員活動をみんなで考えよう！意見交流会」のアンケートより)

- 商品は何気ないおしゃべりで組合員をつなぐ
- 何気ないおしゃべりが、くらし、地域、社会に対する関心を深め、多くのことを学ぶ機会にもなる…。

**●商品がくらしの中にあり、そのコミュニケーションが組合員をつなぐという生協らしい価値をあらためて確認し、そのことが持つ意味を確信に変え、最大限の工夫と努力で、商品コミュニケーションをさらに広げていきましょう。**

〔事例〕コープかがわ  
 •ふれんずクラブ  
 •21年度から  
 •毎月届くお試し商品を囲みながら、気の合う仲間との楽しいおしゃべりを通して自分たちのくらしをより豊かにしていく活動  
 •エリア会：エリア活動の目的に沿って、商品を通じたくらしづくりを進める

〔事例〕コープながの  
 •在宅学習企画「おうちで学ぼう」  
 •組合員に、コープ商品のことをよく知らせるための学びと、商品を試してもらうことを大切に！4つのプロジェクトごとに展開

## ■デジタルの商品活動を広げていく

- オンラインなら、いつでも好きなときに、どこからでもアクセスし、参加することができます。
- 地域を超えた商品コミュニケーションをデジタルで展開できれば、**参加を圧倒的に広げられる可能性がある**はずです。
- 公式の情報発信をするだけでは広がりは限定的
- デジタルの世界も、これまで培ってきた、**組合員自身や組合員どうしの商品コミュニケーションの価値を大事にしながら、共感を得られるものにしていく努力と工夫がますます大切になっていくのではないか**でしょうか

## ■商品を選ぶことが社会づくり、社会参加につながる

- 参加を通じて組合員は食を中心としたくらしに関する課題を知ります。学ぶことから共感が生まれ、応援する、支える、分かち合うという消費行動にもつながります。
- 環境や人権に配慮された商品を選択するなどの消費行動（エシカル消費）もそれにあたります。
- 牛乳パックの回収は生協店舗の店頭から始まりました。レジ袋の有料化により当たり前になったエコバッグも、生協の組合員は以前から持参運動を行ってきました。
- 最初は小さな取り組みが、学び、考え、行動することで、社会を変えるきっかけになりました。
- 商品を選ぶことが組合員にとっては社会参加にもなり、よりよい社会づくりにもつながっています。**
- 商品活動への参加がもたらす生協らしい価値だといえます

**提言3**

**地域の人や組織を組合員参加でつなぎ、  
オープンな居場所やコミュニティづくりを実現し、  
ともにくらす地域をつくりましょう**

**■ 地域の多様なつながりとコミュニティづくりのために**

- ・日本の生協の2030年ビジョンで、「私たちは、生活インフラのひとつとして、地域になくてはならない存在となり、地域のネットワークの一翼を担います」と掲げました。
- ・人口減少、単身世帯の増加、孤独・孤立、格差、分断、地域社会の不寛容なども課題に
- ・家族の形が多様化しているなかでのこれからの介護、まちづくり、セーフティネットづくりは急務
- ・組合員が自分ごととして取り組める → 豊かなコミュニティづくりを協同の実践で

**■ 地域のつながりを支える連携は強まつた**

- ・地域見守り協定や包括連携協定の締結件数は大幅に増え、自治体以外に社会福祉協議会や大学など締結対象も広がり、他団体等との連携も進みました。
- ・地域のNPOや団体を支援する助成制度を持っている生協も増えています。
- ・食材提供など、何らかの形で生協が関わっている子ども食堂は、把握しているだけで650か所以上になりました。これは、全国の子ども食堂（約6000か所）の1割以上に相当する規模です。

## ■ 地域連携を実践する体制とコーディネート機能の大切さ

- 地域の課題は生協だけで解決できない。地域の人たちや NPO や団体などと連携することで、課題解決に、よりダイナミックに取り組める
- ともに取り組む「仲間づくり」を行い、信頼でつながる関係性を構築していくことが重要
- そのためには、**地域社会での役割発揮を実現する体制づくり**と、なかでも、**地域の人・組織・資源をつなぎネットワークを築くコーディネーター**という役割の存在や配置がカギとなります。
- 第1章で述べた、**活動のコーディネーター**のあり方と育成について検討する際には、**地域をつなぐ**ということも視野に入れることが必要となると考えます。
- 活動の経験からエンパワーメントされた組合員理事や組合員リーダー経験者に備わっている「つなぐ力」を生かしていくことも一つの可能性としてあります。
- 生協のコーディネーター経験者は、生協から離れた後も地域のネットワークを築くコーディネーターとして活躍していくことが期待されます。

## ■ オープンな居場所づくりへ

- 地域連携を具体的に進めていくときに力になるのが、「地域の居場所（拠点）」です。
- これからつくる私たちの居場所は、**地域から見える、オープンな場**にしていくことも大切です。
- 生協の店舗のスペースを、地域の人たちがつながる場に変えるというのも一つの方法です。

**コラム column**

**5**

**コープこうべ**

**おいしくつながるみんなのつどい場  
「すーぷ・スープ・COOP」**

コープこうべでは、2017年からコープ龍野のテナント退店跡を活用し、つどい場づくりに取り組みました。子ども食堂への食材提供をきっかけに、福祉でまちづくりに取り組むキーパーソンと出会い、場の活用と地域の活性化を同時に考えるミーティングをつどい場（オープンな場所）から始動。キーパーソンのコーディネートによって店舗を起点に持ち寄り型の活動が広がり、従来はコープ委員会中心に行っていた組合員まつりも、地域が一堂に会するイベントに変貌しました。

### **■ 地域のプラットフォーム（※）に**

- 生協も組合員も地域の中にあり「生協は地域の一員である」ことを意識することも大切です。
- 助成事業や基金を設ける、地域の行事に協力（参加）する、生協のもっている情報や人材で地域に貢献するなどの取り組みが実践されています。
- このような実践が積み重なると、「何かしたい、何かやりたいという想いを実現するならコープに行こう！」と言われるような地域づくりのプラットフォームになれるのではないかでしょうか。
- 地域をよくしたいという想いに寄り添う協同の実践を、地域に住む人とともに進めていくことが大切です。

### **■ 地域とつながり、地域を超えて社会課題の解決へ**

- 災害時やコロナ禍などにおいては、「何かしたい」「少しでも役に立ちたい」という組合員の想いが集まることで、募金や物資を提供するなどの支援活動につなぎることができました。これも、「できるときに、できるひとが、できることを」という気持ちや想いを持ち寄る参加の一つの形です。
- 全国的なネットワークを構築し課題解決に取り組む→ 構造的な問題を社会制度の改善に
- 地域とつながること、地域を超えてつながる → 社会課題を解決していくことが、大切なポイント

**提言 4**

**総代選出のあり方と新たな組合員理事像を描き、  
2030年の機関運営のデザインを検討しましょう**

## ■「機関運営・意思決定への参加」のあり方を未来志向で検討しましょう

- 全国生協の「地域の基礎組織」の人数は減少し続けています。
- 「地域の基礎組織」は総代候補の選出基盤という役割も担ってきました。
- その組織への参加が減るということは、総代を担える人も少なくなることにつながります。
- そして、「地域の基礎組織」への参加の減少や女性の就業率の高まりにより、組合員理事候補者も少なくなっていくでしょう。

↓      ↓

- 「地域の基礎組織」が減少しても、総代、組合員理事を担える人に  
出会い、2030年向けた「機関運営」への新たな参加を  
検討・構築していきましょう。

## ■総代の役割と現状

- 組合員の代表である総代は、生協のあり方を決める総代会という最高意思決定機関で  
議決に参加するという重要な役割を持っています。
- 今日、生協は暮らしを支える社会的なインフラ → 運営や事業継続の混乱や停滞は  
避けなければなりません。 → 総代会の安定的で円滑な運営は重要です。
- 地域の組合員組織の登録人数よりも総代定数の方が多い生協が6割を超え、  
これまでの総代選出基盤では定員を満たせない状況に
- これまでと同じすすめ方では、今後総代の選出が困難になるのではないか。

## ■これからの総代という参加のあり方

- 2019年総代調査では、総代を担ったことで、「生協のことがよくわかった」「地域や社会とのつながりができた」「多くの方に総代を経験してほしい」という意見がありました。
- 総代という役割を担うことで、**自分にプラスになるものがあれば、組合員満足度も高まります。**
- このような体験を多くの組合員に提供できれば、生協のファンづくりにもつながる**でしょう。
- 総代になる**意味や価値を組合員の間に伝え広げていくことも大切です。**

↓      ↓

- しかし、これまでの総代選出は、**声をかけやすい組合員に偏り固定化が起きている**
- 固定化により総代という**運営参加の機会を新しい組合員に提供できない**という課題があるのではないか。

## ■これからの総代という参加のあり方

- 総代の体験を新しい組合員にも提供でき、かつ適切な総代活動・総代会運営ができるよう、選出方法や活動上の工夫が必要です。**
- 仕事もしながら総代を担える工夫は欠かせません。
  - 特定日時に特定の会場に集まれない人でも議論に参加できる工夫
  - 総代会当日の本人出席を必ずしも前提としない、デジタル活用も必須
- どのような組合員に総代になってもらいたいか**ということを考えることも大切です。
  - 利用の多い組合員、SNSでつながっている組合員など
- 様々な場で、様々な方法で、新しい総代選出につながる取り組みを検討しましょう**
- 一方で、多様な参加を広げることで、**健全な議論や意思決定が損なわれることは避けなければなりません**
- 総代として多様な人に参加してもらひながら、コミュニケーションを重ね、総代による意思決定が組合員の総意を反映できるようにし続けることが重要です**

**【事例】**

・福井県民生協は、組合員情報、利用情報、活動情報を統合するCRMシステムから、活動・利用・声の履歴をベースにした総代選出リストを抽出し声かけに活用  
・各生協：総代懇談会のハイブリッド開催・土曜日開催など

## ■これからの総代という参加のあり方

**コラム  
column**

**6**

**ユーコープ**

**総代選出の取り組み**

ユーコープは、2016年に総代のあり方を検討し、幅広い利用者の声を反映するために利用実態にあった年代構成にすることと、長期化・固定化を改善することを目指すことにしました。その中の一つの取り組みとして、2018年に始まったモニター制度や、2021年に行ったユーコープについてのクイズに参加した方に呼びかけ、総代立候補につないでいます。その結果、経年で目指した水準を上回り、2021年度の総代は、1~5期総代の構成比が83.4%になり、平均年齢は2018年56.3歳から49.4歳になりました。総代の有職率も45.9%になりました。

**[事例]**  
**ユーコープ、2016年「総代のあり方タスクチーム」答申**  
・有職者や子育て層、介護者などさまざまな組合員が参加しやすい場所や日程、運営方法の検討が必要  
・「総代は楽しい」と思える運営の工夫  
・総代選出業務を生協全体課題と位置付ける  
→ プロジェクト設置  
・総代が発言しやすい  
・限定企画  
・総代限定WEBサイト「総代ルーム」開設（17年）  
→ 総代の「自宅参加」18年から  
※タスクチームのヒアリングから、実参加を前提とする職員の意識が徐々に変化していった

## ■組合員理事の役割と存在の意味

- 理事会は、総代会の意思決定に基づき、重要な事項について判断し、日常の業務執行について監督する役割を持っています。 その一翼を組合員理事が担っています。
- 組合員理事は、組合員組織の活動を通じて、周囲から信頼を得たり、つながりを広げたりした人たちが担っています。
- 組合員理事の主な役割は、組合員の想いをよりよい意思決定につなげ、理事会メンバーとともに事業と活動を推進することです。
- 組合員理事は、生活者の立場で暮らしへの共感を大切にし、生協の運営やあり方を主体的に考えていく理事会の一員です。
- また、現在は生協の事業が多方面に渡り、組合員理事としての判断も多方面の知識・情報の上に行う必要があり、その役割は従来にも増して大きなものになっています。

## ■今後の組合員理事の選出について

- 2017年度に32生協で行った「組合員理事・リーダー活動調査」では、仕事を持ちながら役割を果たしている組合員理事は約3割でした。
- 女性のライフスタイルが変化するなか、組合員理事の役割を果たせるようになるまでに長い時間かけるのが難しい地域も出てきています。
- 2030年の働き方を想像すると、今後は、その目的や内容は維持しつつも、**組合員理事になるまでの期間を短くすることもできるような工夫が必要になるかもしれません。**
- あるいは、**組合員理事候補の幅を多様に広げる可能性についても検討する必要があるかもしれません。**
- すでに地域社会で活躍してきた経験や関連するスキルのある方が、理事の候補になるという可能性もあるでしょう。その検討にあたっては、組合員理事の役割を担えるように育まれていく仕組みづくりはもちろん、定数、構成、役割、報酬など処遇についても検討対象とする必要があるかもしれません。
- それぞれの生協により、これまでの経過や歴史の中で大切にしてきたことは異なります。**組合員理事の本来の役割を踏まえて、未来の組合員理事や理事会のあり方について、多様な可能性を視野に入れた検討と議論を始めましょう。**

## 提言5

**D Xを起点に新しい参加を生み出し、  
新たな生協像を拓いていきましょう**

## ■デジタル化が拓く可能性

- これからは、オンラインをリアルの補完とはせずに、生協らしい「参加がもたらす価値」をはぐくんできたリアルと、新しい参加を生むオンライン、それぞれの良さを追求し、使いこなすことでさらに参加を広げることができます。
- SNSに「いいね！」をすることも参加です。参加から発せられる「声」があふれ、その「声」がつながっていくとき、これまで見えにくかった生協の組合員参加が一気に見えるようになり、オープンなものに変わっていきます。

## ■DXがもたらす世界と生協への参加

- DX（＝デジタル・トランスフォーメーション）（※）がもたらす、暮らしや社会の大変化に備え、組合員参加を時代にふさわしい形にデザインし始めるときです。
- 新しい世界の組合員参加は、生協のあり方そのものを大きく変化させ、拓いていくでしょう。
- たとえば、メタバースと呼ばれるインターネット上の仮想空間が、生協と組合員、組合員どうしのコミュニケーションの場となるかもしれません。

## ■参加を広げるためにデジタル化を進めましょう

- まずは環境整備が必要です。
- 一定の役割のある活動の担い手にはタブレットなど一人一台のデバイスの支給も必要になるでしょう。
- 既存の組合員活動・参加のプロセス（お知らせ、申込手続きなど一連の作業）の合理化とデジタル化に着手する必要があります。企画立案までも含めた作業の効率化を目指し、効率化により生まれる時間的な余裕で、新しい価値を生み出していきましょう。
- 「できるときに、できるひとが、できることを」という参加の形とデジタルを組み合わせることで、リアルも含めた生協への参加は「気軽に、どこからでも、無理なく参加できる」ものになります。
- 生協の組合員活動という言葉から、「堅苦しそう」「大変そう」というイメージを持つ人たちや、そもそもまったく知らない人たち、これから生協に加入する若い人たちにも、生協の「参加がもたらす価値」が伝わっていく、そのような未来の組合員参加をデジタルで拓いていきましょう。

30P

## 「2030年に向けた組合員参加のあり方に関する提言」を受けて 全国生協への呼びかけ

日本生活協同組合連合会 理事会

「2030 年に向けた組合員参加のあり方検討委員会」がまとめた提言について、日本生協連理事会としての受けとめを記します。特に以下の 3 点について、各生協内での認識共有と今後に向けた検討を呼びかけます。．．．

### 1. 組合員参加の価値の重要性と、組合員参加をとりまく喫緊の課題を認識しましょう

組合員参加が組合員自身と地域や社会、そして生協にもたらす価値について、あらためて言語化されるとともに、その重要性が示されました。一方で地域の基礎組織や活動における参加が減少傾向にあるなか、将来に渡ってこの価値を受け継いでいくことができないのではないか、という危機認識が提示されました。明日にも、組合員活動や機関運営などの諸々への参加が成立しなくなるという状況ではありませんが、組合員参加に大きな影響を与えるくらしや社会の変化は確実に起きています。組合員参加がもたらす価値の重要性と、組合員参加をとりまく喫緊の課題を認識し共有することを各生協に呼びかけます。

30P

## 「2030年に向けた組合員参加のあり方に関する提言」を受けて全国生協への呼びかけ

### 2. くらしや社会の変化をふまえ、組合員参加と組合員組織のあり方を検討しましょう

提言は、組合員参加をこれからも豊かに広げていくための方向性として、地域の基礎組織に多様性を持たせる、「持ち寄り型の参加」を取り入れる、小さな多様なコミュニティをたくさんつくる、商品コミュニケーションをデジタル活用で広げる、地域活動においては連携を実現する体制やコーディネート機能が重要である、ことなどを示しています。組合員参加の形は生協ごとに経緯や置かれている状況が異なります。くらしや社会が激変していることをふまえながら、それぞれの生協にあつたかたちで、これから組合員参加と組合員組織のあり方の検討を呼びかけます。

### 3. 適正な機関運営を継続するために、必要な課題を生協の実情にあわせ検討しましょう

今回は特に機関運営における組合員の参加についても提言がなされました。機関運営のあり方はその生協の自治・主権にかかわるものであり、慎重に検討される必要があります。また、手続面からも組合員の納得の面からも時間をかけなければ変えていくことができません。総代と総代会のあり方、理事会、特に組合員理事のあり方について、それぞれの生協が、自分たちが大切にすることに沿って、くらしや社会の変化を見据えて必要な取り組みを行うことを呼びかけます。

これらを推進するために、日本生協連として以下の取り組みをすすめます。

1. 提言を共有し、議論を呼びかける場づくりを進めます。2. 参加のあり方検討に関する先進事例などの情報発信を行います。3. 組合員参加の広がりを支援するデジタルツール開発を検討します。以上

## 資料目次

2030年に向けた組合員参加のあり方検討委員会 検討経過 ..... P.32

### 資料1

「2006年これからの生協における組合員参加と組織のあり方に関する提言」より ..... P.33

### 資料2

「2021年度全国生協組合員意識調査」から ..... P.34

### 資料3

「2020年度全国組合員活動実態調査(2021年度実施)報告書」から ..... P.39

### 資料4

これからの組合員活動をみんなで考えよう! 意見交流会 ..... P.42

### 資料5

コロナ禍で見えた、「非同期」「分散型」のつながり方 ..... P.47

## 提言づくりに、多くの声や想いを反映しました

◎ 2021年10月、「これからの組合員活動をみんなで考えよう！意見交流会」を計3回開催。

　　全国の組合員理事や組合員活動を担当する職員が延べ370人以上参加。

- ・ 検討委員会の論議の途中経過を聞いた後に参加者同士が交流をした上で、各自の考えをアンケートで寄せてもらいました。
- ・ これらの声は、本提言の随所に生かされています。提言の資料集にも一部を掲載しています。

◎ 2022年1月12日の全国方針検討集会の「活動・組織分科会」では、

　　提言に向けた論点報告と関連する3生協の事例報告を行いました。

　　チャットや投票機能を活用して、視聴者とつながりながら分科会を進行しました。

◎ このように、これからの組合員参加のあり方を実際に考え、検討していく方たちにも、

　　提言づくりのプロセスに参加していただくことを大事に進めてきました。

ご清聴、ありがとうございました。  
今、参加の価値と力を感じている  
みなさんと一緒に、これからを  
考えていきましょう。

～参加がもたらす価値を未来につないでいくために～